



遊びの充実に向けて

主任 樋谷 桃代

今年の夏は本当に暑くて、秋が待ち遠しかったですね。9月中旬を過ぎてから、やっと少しずつ朝晩の空気が涼しくなり、日の入りが早くなったことで秋が感じられるようになりました。

2学期が始まって1か月、夏の経験を取り入れて遊んだり、運動会に向けた活動を楽しんだりして過ごしていました。暑くてなかなか戸外で遊べなかった分、部屋の中でのごっこ遊びが盛り上がっていました。その中でも、先日愛育会主催で行われた親子観劇会での「こびとのくつや」を見た経験から4歳児・5歳児ともに「人形劇ごっこ」を楽しむ姿につながりました。

4歳児もも組では、自分で作って動かすことができる年齢に合わせた材料を教師が用意し、動物を描いて切り取った紙を紙の棒につけて“ペープサート”の人形劇ごっこをしました。先生も仲間になり、きっかけになるような言葉をつぶやくと、子どもたちは作った動物を動かしながらかくれんぼをしたり、お出かけをしたり、ぶどう狩りをするなどの動きを楽しみました。人に見せるのはちょっと恥ずかしいようで、演じている子どもたちは顔を舞台でかくしていましたが次第に見てもらいたい気持ちが高まり、ゆり組をお客さんに呼びました。それを見たゆり組の子どもは、「楽しかった」「上手だったね」と優しく見守っていました。



5歳児ゆり組では、初めは先生と一緒に仲間に入りながらお話を進める手伝いをしていましたが、子どもたちの記憶がとても鮮明で、先生がリードしなくても次々とセリフが出てきました。「そんなセリフや歌まで覚えているの?!」とその再現にとっても驚かされました。演じながら、「今日はここまでです」と区切ったり、



足りないものや登場人物に気が付いて作り足したりして毎日コツコツと進めていきました。人形も本物のように工夫して作っています。徐々に先生が仲間に入らなくても自分たちで進めることができるようになり、もも組をお客さんに呼んで開演しました。決まった台本やセリフはなくても人形ごっこをしているように楽しみながら「こびとのくつや」の人形劇を忠実に再現し、演じていました。

子どもたちの姿を見ていると、様々な場面でやり取りを楽しんだり一緒に何かを進めたりするなど、子ども同士のつながりが自然に生まれています。

私たち教師は毎年、指導力を向上させるために園内で研究をしています。今年度の研究テーマは「ごっこ遊びの充実を目指して～遊びが面白くなるための援助や環境の工夫を探る～」です。本園の少人数のよさをいかしながら、遊びの盛り上がりや子ども同士の関わりの充実を図るためには、教師がどのような役割を担うことが必要かということの研究し、学び合っています。先日、文京区立幼稚園・子ども園の教員が集まって行っている教育研究会の中で学ぶ機会をいただきました。その中で、講師の先生から「その経験が後々に何をもたらすかということよりも、記憶になって残っていることはその時期が充実していたということ」というお話を伺いました。本園では少人数だからこそスペースを広く確保できたり、使いたい遊具が存分に使えたり、自分の思いを教師に伝えたりすることができるメリットがあります。イメージを膨らませて子ども同士で関わりながら意欲的に遊び、幼児が心の底から“この遊びは楽しかった”と実感できるように遊びの充実を目指し、教師皆で力を尽くして取り組んでまいります。